

お米Q&A

本文監修：国立大学法人新潟大学 農学部応用生物化学科
教授 大坪 研一

Q. 水田に生える雑草というのは、水中でも生えてくるのですか。

A. 生えてきます。多くの植物では、種子が発芽するときに酸素が必要です。水中では酸素が少ないので、多くの植物は発芽がしにくくなります（水田の水は雑草予防にもなっているといえます）。ところが、タイヌビエやタマガヤツリなどの水田に生える雑草は、水中でも種子から芽を出すことができってしまうという特性を持っています。なかにはコナギのように、水があって酸素が少ないほうが芽をだしやすいという雑草もいます。

また、水田の雑草には、タイヌビエやタマガヤツリのように、春に種子から発芽し秋にはかれてしまう種類（一年生雑草）と、クログワイのように、秋にかれたように見えても、実は土の中の茎くきが生き続けている種類（多年生雑草）があります。多年生雑草もまた、水中で茎くきから芽を出すことができます。

雑草対策に広く行われているのは農薬の「じょ草剤」を使うことです。水田で使われるじょ草剤いねは、稲の生長には無害で、雑草だけをからしてしまふ種類が使われています。

なお、現在水田で使われているじょ草剤は性能がよいので、お米作りの期間に1～2回まくだけで十分な効果が得られ、収穫後のお米には残らないようになっています。